

平成22年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

☆ 火災は2件の減少

平成22年中に高槻市内で発生した火災は101件で、前年の103件と比べ2件の減少となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は2.8で、全国平均4.0（平成21年中）と比べ1.2ポイント低い。

(2) 火災種別

☆ 建物火災が約半数

平成22年中の火災件数のうち建物火災が50件（うち住宅関係の火災が38件）で、全火災の約半数を占めている。

建物火災	50件（49.5%）
林野火災	3件（3.0%）
車両火災	10件（9.9%）
その他の火災	38件（37.6%）

(3) 焼損面積

☆ 焼損面積は2倍以上に増加

建物火災は2件減少したが、焼損床面積は1,407平方メートルで、前年の581平方メートルに比べ826平方メートルの増加となった。

焼損表面積は197平方メートルで、前年の148平方メートルに比べ49平方メートル増加している。

(4) 損害額

☆ 損害額は約3倍に増加

平成22年中の損害額は2億2,200万2千円で、前年の7,035万5千円に比べ1億5,164万7千円の増加となった。

1件当たりの損害額は219万8千円で、前年の68万3千円より151万5千円の増加である。

(5) 火災による死傷者

☆ 死者が急増、負傷者も増加

平成22年中の火災による死者は6人、負傷者は25人で、前年より死者が6人増加、負傷者は4人増加である。

また、負傷者25人のうち、重症者が3人(前年4人)、中等症が6人(前年5人)、軽症16人(前年12人)である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

☆ 22年連続1位に放火（疑いを含む）

ア 平成22年中の全火災（101件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

放火（疑い17件を含む）	24件（23.8%）
たばこ	12件（11.8%）
こんろ（天ぷら油の過熱等）	12件（11.8%）
火あそび	10件（9.9%）
たき火	8件（7.9%）

ストーブ	6件 (5.9%)
電灯・電話等の配線	4件 (4.0%)
灯火	3件 (3.0%)
電気機器	2件 (2.0%)
マッチ・ライター	2件 (2.0%)
風呂かまど	1件 (1.0%)
排気管	1件 (1.0%)
配線器具	1件 (1.0%)
取灰	1件 (1.0%)
不明	1件 (1.0%)
その他	13件 (12.9%)

イ 建物火災（50件）を原因別にみると以下のとおりである。

こんろ（天ぷら油の過熱等）	12件 (24.0%)
放火（疑い8件を含む）	11件 (22.0%)
ストーブ	6件 (12.0%)
たばこ	3件 (6.0%)
電灯・電話等の配線	3件 (6.0%)
灯火	3件 (6.0%)
火あそび	2件 (4.0%)
マッチ・ライター	2件 (4.0%)
風呂かまど	1件 (2.0%)
電気機器	1件 (2.0%)
不明	1件 (2.0%)
その他	5件 (10.0%)

(7) まとめ

☆ 地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

平成22年中の火災は、101件で前年の103件に比べ2件減少している。約半数を占める建物火災については、50件で前年の53件に比べ3件減少しているが、焼損棟数、り災世帯数、り災人員共に前年から増加し、損害額と焼損面積については大幅に増加している。また、火災による死者が前年の0人から6人になっている。亡くなった6人のうち、住宅火災での死者が5名であり、年齢別では5名が65歳以上となっている。

出火原因については、1位が「放火（疑い含む）」、2位が同数で「たばこ」と「こんろ（天ぷら油の過熱等）」、4位が「火あそび」と、前年同様の出火原因が上位を占めている。

これらのことを踏まえて、地域住民を対象とする防火講演、訓練及び自主防災組織を通じて「住宅用火災警報器」の設置を推進し防火意識の高揚を図るとともに、放火されにくい環境づくりを推進していかなければならない。

平成22年火災 火災概要 (対前年比)

区 分	単位	平成22年 (A)	平成21年 (B)	増減 (C) (A)-(B)	増減率 (%) (C) / (B) × 100	
出火件数		101	103	△2	△1.94	
建物火災		50	53	△3	△5.66	
林野火災	件	3	3	0	0.00	
車両火災		10	7	3	42.86	
その他の火災		38	40	△2	△5.00	
焼損棟数		77	65	12	18.46	
全 焼		9	4	5	125.00	
半 焼	棟	2	1	1	100.00	
部分焼		14	17	△3	△17.65	
ぼ や		52	43	9	20.93	
焼 建	床面積	m ²	1,407	581	826	142.17
損 面	表面積	m ²	197	148	49	33.11
積	林 野	a	2	31	△29	△93.55
死者	人	6	0	6	-	
負傷者	人	25	21	4	19.05	
り災世帯		78	54	24	44.44	
全 損	世帯	13	8	5	62.50	
半 損		13	5	8	160.00	
小 損		52	41	11	26.83	
り災人員	人	196	124	72	58.06	
損害額		222,002	70,355	151,647	215.55	
建物		217,382	59,963	157,419	262.53	
林野	千円	0	0	0	0.00	
車両		2,060	9,132	△7,072	△77.44	
その他		2,560	1,260	1,300	103.17	
出火率	件	2.8	2.9	△0.1	△3.45	
年	平成22年		平成21年			
主な火災原因	1	放火 (疑い含む)	24件	1	放火 (疑い含む)	38件
	2	たばこ	12件	2	たばこ	15件
	2	こんろ	12件	3	火あそび	7件
	4	火あそび	10件	4	こんろ	6件
	5	たき火	8件	5	たき火	5件

(△は負数を表す)

過去5年間の火災状況

区分		年別	18年	19年	20年	21年	22年
火災件数			104	124	116	103	101
内 訳	建 物		69	77	70	53	50
	林 野		1	2	1	3	3
	車 両		8	8	7	7	10
	その他		26	37	38	40	38
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			83	99	78	65	77
内 訳	全 焼		7	6	4	4	9
	半 焼		7	6	3	1	2
	部分焼		15	29	11	17	14
	ぼ や		54	58	60	43	52
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	991	1,617	568	581	1,407
		表面積（㎡）	315	231	143	148	197
	林 野（a）	0	15	10	31	2	
り災世帯（世帯）			60	92	59	54	78
内 訳	全 損		9	14	8	8	13
	半 損		6	5	2	5	13
	小 損		45	73	49	41	52
り災人員（人）			162	234	141	124	196
損 害 額（千円）			142,197	295,663	40,983	70,355	222,002
内 訳	建 物		138,776	277,540	39,700	59,963	217,382
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		3,276	14,873	1,138	9,132	2,060
	その他		145	3,250	145	1,260	2,560
死 者	48時間（人）		1	3	2	0	6
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			24	22	21	21	25
覚 知 別 件 数			104	124	116	103	101
内 訳	火災報知専用電話（119）		60	84	68	57	56
	加 入 電 話		3	4	4	3	1
	警 察 電 話		2	3	6	10	2
	事 後 聞 知		37	33	34	33	38
	そ の 他		2	0	4	0	4

2 救 急

(1) 救急出場件数

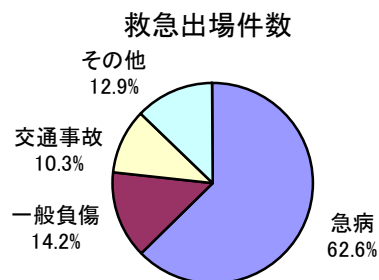
◎ 出場件数は増加

平成22年中の救急出場件数は16,615件で前年15,721件に比べ894件(5.7%)増加した。

また、1日平均にすると約46件、約31分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で10,400件(62.6%)、第2位が一般負傷2,361件(14.2%)、第3位が交通事故1,713件(10.3%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は494件であった。



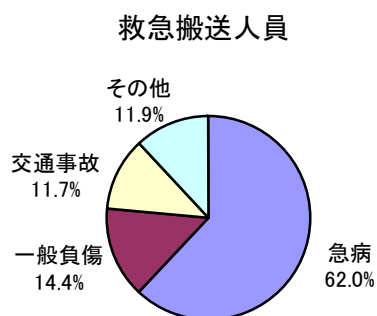
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成22年中の搬送人員は15,073人で、前年14,376人に比べ697人(4.8%)増加した。

また、1日平均約41人、市民の約24人に1人が救急車で医療機関に搬送されたことになる。

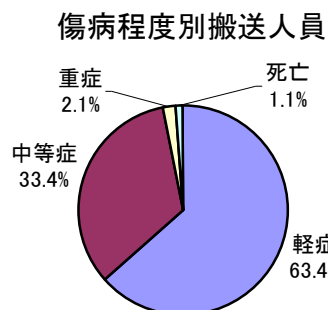
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で9,349人(62.0%)、第2位が一般負傷2,175人(14.4%)、第3位が交通事故1,768人(11.7%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は9,557人

平成22年中の搬送人員15,073人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が9,557人(63.4%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,036人(33.4%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が314人(2.1%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が166人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成22年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数・搬送人員ともに増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の63.4%を占めており、全国平均の50.7%(平成21年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要（対前年比）

区分 事故種別	出場件数(件)			搬送人員(人)			
	22 年	21 年	増 減	22 年	21 年	増 減	
合 計	16,615	15,721	894	15,073	14,376	697	
火 災	57	56	1	29	18	11	
自然災害	0	1	△ 1	0	0	0	
水 難	6	3	3	3	0	3	
交 通	1,713	1,768	△ 55	1,768	1,825	△ 57	
労 災	83	79	4	80	76	4	
運動競技	82	62	20	82	67	15	
一般負傷	2,361	2,189	172	2,175	2,016	159	
加 害	122	123	△ 1	107	110	△ 3	
自損行為	248	301	△ 53	153	205	△ 52	
急 病	10,400	9,685	715	9,349	8,815	534	
そ の 他	転院搬送	1,323	1,241	82	1,317	1,235	82
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	220	213	7	10	9	1

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	9	48	8	0	1	74	1	61	202
活動件数(件)	9	20	7	0	1	53	1	18	109
救助人員(人)	8	19	1	0	1	47	1	13	90

4 その他出場

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	21件	火災危険のあるもの（危険物・ガス漏洩等）
誤虚報出場	25件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	325件	救急等の支援活動
その他出場	309件	上記以外（怪煙調査・エンジンオイル漏洩等）
合計	680件	

(2) 応援出場

区分	件数	応援出場の内容
茨木市	4件	救急出場
摂津市	1件	その他出場（水路油漏洩）
島本町	16件	救急出場（うち特別救急隊出場12件）
寝屋川市	1件	その他出場（淀川河川敷・警戒出場）
京都市	1件	救急出場
合計	23件	

(3) その他の災害出場

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出場	1件	8月27日集中豪雨による水害（浸水警戒・道路冠水）
その他	0件	
合計	1件	

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す